



KD9 04.2.15.

皆様には、新たな気持ちで新年を迎えられたことと思います。本年も、皆様のご理解とご支援を頂きながら、連合会活動を進めて参りたいと思えます。どうぞ、よろしくお願い致します。

さて、二十一世紀に入って四年目を迎えました。「二十一世紀こそ、世界が平和であってほしい。争いと憎しみのない世界であってほしい」との願いを持ったのは私だけではないと思えます。しかし、二年前に起きたアメリカでの同時多発テロ事件以降、世界各地でテロ事件が繰り返され、また大量破壊兵器発見の名のもとにイラク戦争が勃発、現在終結したものの、絶えることなく起きるテロ事件、武装集団の復讐によって犠牲となる人々が後を絶たず、暴力によって数知れない尊い生命が失われていることは、とても悲しいことです。

また、その様な中に、日本政府が充分理解されないままに決断したイラクへの自衛隊派遣が現実となりました。「これ

で本当によいのだろうか」という疑問を禁じ得ません。更に北朝鮮の日本人拉致問題等、想像もつかない深刻な問題が起きていられるのも事実であり、現実であります。

『世と人の助かり』のために、
祈りと行動を
神奈川山梨教会連合会長 南 清孝



そして、日本では、長期化する経済不況のなか、生きる希望を失った熟年層の自殺や借金苦からの自殺者が増加し、虐待や

凶悪犯罪が頻繁に起こり、人命が軽視された時代でもあります。

教祖生神金光大神様は、明治九年に神様から「天地の道つづけている。道を開き、難渋な氏子助かること教え」と、お知らせを受けられ、更に「世が開けるといふけれども、開けるのではなし。めげる(壊れる)のである。そ

こで金光大神が助けに出たのである。」と仰せられています。明治十三年には、「すべての人間は、素人、玄人と申すこともなく、大人、子供の区別なく、天地に無礼をしている。その人間の無礼な行為によって、天地の一切のものが、鳥や獣に至るまで差し障りを受け、それがまた人に当たり返している。そうした人間が、無礼をお断りするよう、天地乃神が教えてやる。その取次をするのが、生

神金光大神である。しかし、教えに背く者は仕方がない」と、神様からお知らせを受けられました。今の時代に、この教えの内容をしっかりと頂いて行く大切さを感じます。

さて、当連合会では、今年、神奈川山梨布教百十年奉祝期間の最終年にあたります。そこで、基本方針に『神奈川山梨布教百十年奉祝期間の最終年にあたり、信心の興隆と人材の育成・発掘、基盤づくりに努め、布教活動を推進する』と掲げ、活動方針に①金光大神の信心を今日に頂き直す。②研修と交流の場をつくり、連帯を図る。③他連合会等との連携を図り、首都圏布教を推進する。―と定めました。

改めて、信奉者一人ひとりが、今日信心ができる喜びのなかに、金光大神様の信心の内容を正しく確かなものにして、神様から自らに託された使命と役割を自覚しつつ、互いに連帯して、ご神願成就のお役に立たせて頂きたいと思えます。

具体的な活動としては、信奉者が結集して、神奈川山梨布教祈願詞を奉唱させて頂きたいと思えます。教会や各自のご祈念の折々に奉唱して、今日信心ができる有難さ、喜びを実感するとともに、先覚諸師がその時代その時代に、「道を伝えたい。人を救い助けたい」との布教情念を抱いた実践の歴史を顧みて、私達もその思いを自覚するとともに、昨春秋に刊行された教祖伝『金光大神』を通して、自らの信心の内容を見つめ、確かな信心へと導いていくことの大切さを感じます。

連合会では九月四日(土)に金光大神様のご信心を今日に頂くことを求めて、信心研修会を開催致します。ついては、各自が教祖伝『金光大神』に目を通すとともに、教会で研修の場が持たれることを切に願う次第です。

また、連合会には現在、広報、青少年、社会活動推進の各室がありますが、中でも社会活動推進室の充実が願われるとこ

今年予定している
主な行事

☆ 信奉者のつどい ☆

開催日 — 7月24日(土) ~
25日(日) (予定)

会 場 — 観音崎青少年の村

*キャンプファイヤーや
自然散策などを予定しています。

*後日ご案内致しますので、
どうぞご予定ください。



☆ 信心研修会 ☆

開催日 — 9月4日(土)

午後1時より

会 場 — 鶴見教会(予定)

*講話—「御伝記『金光大神』に見る世界」

*講師—浅野善雄師(本中野教会長)

*発表—「信心を生活の中に

どう現していくか」

(教師・信徒各2名の発表)

*講話、発表を受けて、質疑及び懇談

ろであります。更には、一昨年から『女性のつどい』が開催されています。今年には昨年と内容を変えて、「生け花教室」を通して、女性信奉者の交流と親睦を図ることを願いとして二回開催するとともに、女性を対象にした活動母体ができないものか、女性の意見を伺い、努めて行きたいと思えます。

以上、思うままに述べましたが、皆様のご協力がない限り、連合会の活動は進できません。皆様とともに連合会活動に取り組んで参りたいと思えます。よろしく、お願い致します。

第6回 講話と夕食の会 03.11.29. SAT

「新しい『金光大神』をいただく

講師 一和泉正一師 (金光教東京センター所長)



↑ 講演中の和泉先生

去る11月29日(土)、鶴見教会に於いて第6回目を迎える「講話と夕食の会」(信徒部主催)が、講師に和泉正一先生(金光教東京センター所長・白金教会長)をお迎えして開催されました。

先生は、「新しい『金光大神』をいただく」と題して、刊行の背景や、拝読されての思いを話されました。

昭和28年に旧教祖伝が刊行されて以来50年、改めて御伝記を頂いて、どれだけ先輩方のお力がこもっているかというのを思う。お道に対する思い、また教学研究の成果、そういうものが結集されているからである。

教祖ご晩年に直信方によって始められたみ教え拝記のこと、そして教祖御略伝編纂委員会とそれらに連なる活動、戦後になって教祖伝記率修所から教学研究所へ至る地道な取り組みの積み重ねを思うと、「金光大神様のご信心を間違わぬように頂いて、世の人々に正しく伝える」そのためにこの御伝記があるということ、まずはっきりさせておきたい。

そして、一代記、偉人伝としての側面もあるが、私達は、信心を間違いなく頂くために、また信心の自己吟味をするために拝読させていただくということが、この御伝記に対する基本的な態度であろうと思う。

新たな『金光大神』は、昭和58年に出された『金光教教典』を元に書かれている。したがって教典以上の新たな事実はない。だが、教祖様の事跡に対して背後の社会の動きが共に書かれ、どういう時代のお知らせか、ご理解かということが分かる。また、江戸時代の頃はどんな、明治の始め頃はこんなと、時代々々の直信方がまとめて書かれている。というように、教典だけでは読み取れない背後のこと、その時代のこと、そこに生きた人々のことが系統立てて分かり易く書かれている。

今でこそ私達は、教祖様、金光様と申しますから、偉大なお方と思うが、実際にここに生きた教祖様は非常に厳しいところを通っておられた。それは決別と旅立ちの繰り返しであり、大それた言葉では「ご修行」であった。その中で教祖様は、自分の周りにまとわりついてくる神様の世界、神様が人を助けに助けてこられた世界(神代)に気付かれていった。

私は、信心の社会性を考える時、そのお姿に、どんな時代社会になろうとも、どんな人間であろうとも、神様が助けに助けてくださる世界が私達にはまとわりついていてるんだ。生身の目では見えなくても心の目で見える、そういう世界があるんだ。ということを改めて思わされた。

(4ページに続く)

金光教丸子教会前教会長
横山敏三先生が、2月8日
に84歳でご帰幽になられ
ました。
ここに、謹んで長年の御用
への御礼を申し上げますと
共に、ご冥福をお祈り申し
上げます。

この本の最後の章は、「生神の道」で締めくくられて
いる。

「生神」とは「神が生まれる」ということだが、
「神が生まれる」というのは大変なことと思われるか
もしれない。しかし、私達の周りに神様のお働きがま
とわりついていることからすると、顕し方一つである。

事にあたって、「運がいいなあ」「まずいなあ」と
思えば何も生まれませんが、「おかげ頂いたなあ」「神
様のご修行だなあ」と思えば神様が生まれて下さる。
こういった信心、神様が生まれて下さる生き方ををし
ていきたいと思いますということを、新しい『金光大神』は
教えて下さっていると思う。

やまがみ通信

女性のつどい “いけばな”を通して“道”を学ぶ

☆日時

・第1回 3月6日(土) 11時～15時

*参加費—500円

*講師の講義とデモンストレーション
(昼食は用意しております)

・第2回 6月26日(土)

*参加費—1500円

*実際に花をいける(時間は未定)

☆会場—鶴見教会

☆講師—浅生信吉氏

(登戸教会信徒・池坊準華督)

*詳しくは、教会送付のチラシをご覧ください。

*お申し込み・お問い合わせは

TEL 045-421-1927

子安教会 村田光治まで

〈な・が・れ〉

ならい性と成る Ⅱ習性Ⅱ

子安教会 村田喜実雄

習性とは、習慣が遂に性質のよう
なる。という意味で使われます。

もともとは、学習・稽古などを積み
重ねて行けばそれが身に付いて行く—
勉強や稽古によく励むことが大切であ
る—と言ったのだと思います。それが
時間と共に、いわゆる“〇〇の習性”
と使われるようになり、固定化したも
のを表現するようにもなったのでし
ょう。

信心においても、マンネリ化?とか
少し外れてない?とか言うこともある
ものです。

自らの信心は天地の道理に合ってい
るか、習性化してはいないかを点検す
るのもよいでしょう。教の元・教祖の
信心に帰って点検したいと思えます。

金光教 神奈川 山梨教会連合会

発行者 南 清 孝

編集責任者 横山 光 雄

川崎市多摩区生田五—二四—九

金光教登戸教会内